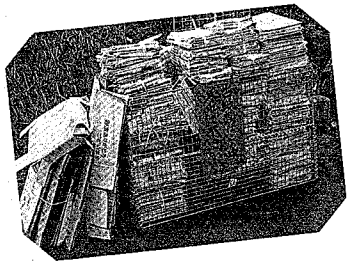
ごみ文化を考える③

ごみの減量化へ生活にひと工夫を

ごみと一口に言っても、家庭から出るごみ、会社や工場から出るごみといろいろありますが、今回は、家庭から毎日出されるごみを減量化するにはどうすればいいのかを考えてみます。ごみの減量化は、私たちの生活スタイルを少し見直すことで始めることができます。



ごみの減量化6か条とは……

私たちの生活からごみを出さないことは大変難しいことですが、ごみを減らす生活を送ることは可能かと思います。

それでは、ごみを減らすにはどういう工夫をすればいいのでしょうか。次の六つをキーワードとして挙げてみます。

①減らす…物にはごみになるものとリサイクルできるものとがあることを頭に入れて、買い物をするようにしましょう。リサイクルできるものはごみになりませんので、買い物をひと工夫すればごみは減っていきます。

②繰り返し使う…物は持ち主がいらないと判断したときからごみとなります。物は使えなくなるまでごみにしないようにしてください。

③紙ごみのリサイクル…紙を種類別（新聞、雑誌、段ボール、紙箱）に分けて、資源の日に出してください。

※禁忌品（ガムテープや油紙、ビニールなど）は、資源ごみから取り除いてください。

④断る…商品の過剰包装はなるべく断るようにしましょう。

⑤借りる…買わないで借りることができるもの、一定の期間しか使わないものは借りるようにしましょう。

⑥リフォーム、修理する…不用になった衣類、壊れてしまった家具は、リフォームや修理ができるかどうか試してみてください。

"必要な物だけを効率的に買い、買った物は繰り返し使い、リサイクルに回す"、これがごみを減らす基本です。私たちのできるところから少しずつ始めてみませんか。

生ごみと布類のリサイクル方法

□生ごみのリサイクル

台所から出る生ごみは、燃えるごみの三〇％を占めています。生ごみは収集作業に時間がかかり、また燃えにくいため、焼却能力の低下を招くこともあります。そこで生ごみはコンポスト容器やEM菌を使って埋肥化していただくことをお勧めします。なお、生ごみはよく水を切ってから出すようにしてください。

※EMボカシの作り方を紹介し、たパンフレットを差し上げています。問い合わせは新津EM研究会事務局（市役所生活環境課内、☎24－2111内線553）へ。

□布類のリサイクル

衣類は集団回収に出しても、ほとんど引き取ってもらえないのが現状です。そこで、人に譲ったり、交換したり、不用品交換会に出したりすることで、生かす道が広がります。

指定袋の販売店を募集中です

市では、ごみ指定袋の販売を希望する小売店などを募集しています。

□問い合わせ　生活環境課環境衛生係（☎24－2111内線553）へ。

お買物、ご用命は市内で

謹賀新年　快適な暮らしは、快適な水まわりから……
住まいもいきいきリフレッシュ！
水まわり増改築専門店
水と住まいのふれ愛
システムショップ かねみや
INAX
本町2丁目1-11　☎24-1630

廃品回収は私たちに任せてよ！

本町4丁目婦人会

ここでは、地球にやさしいまちを目指し、三十年間にわたり町内の廃品回収に取り組んでいる本町四丁目婦人会の皆さんをご紹介します。

子どもたちに物の大切さを教えて

本町四丁目婦人会の皆さんは、昭和四十一年から毎月十二日を『町内・廃品回収の日』と決めて、自主的に町内の廃品回収を行っています。

そもそもこの廃品回収は、当時若妻会の方たちが自分たちの子どもに物の大切さを教えてやりたい、また町内会館の建設資金を作りたいという願いから始めたものです。《毎月十二日は町内の廃品回収日です。指定した場所に新聞や雑誌、空きびんなどを出してくださるようご協力お願いします》と、回覧板で廃品回収の日をお知らせしたところ、町内の人たちは快く資源ごみを出し、若妻会の善意に応えたそうです。

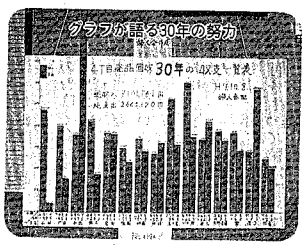
若妻会で頑張る廃品回収（昭和44年頃）

それから三十年、若妻会の力でスタートした廃品回収活動は、現在そのまま婦人会が引き継いだ形となっています。今ではどこの町内でも実施している廃品回収ですが、本町四丁目には「いや、助かります。ご苦労様です」という地域の声に支えられながら、ごみのリサイクル社会は自分たちの手で作る姿勢が脈々と生き続けていることを感じます。

地域の助け合いでリサイクル社会を

ごみの再資源化という一つの道を大切にしてきた"地域の頑張り屋さんたち"。これまでのことを振り返り、「お盆でも休むことはありませんでした。とにかくリヤカーを引っ張って、汗を流しながら廃品回収したときのことは忘れられません。三十年間続けてこれたのも、私たち一人ひとりが楽しみながら廃品回収という仕事をしてきたからでしょうね」と話しています。

本町四丁目婦人会では、廃品回収で得た収益金を町内会館の建設資金（一部）や町内会館用の座布団、防災カーテン、町内の災害見舞金、敬老会に使うなど、地域の発展に大きく貢献してきました。こうした地道な活動はやがて実を結び、平成五年度には県自治活動賞を受賞され、「三十年前から自主的に廃品回収を続けているのは、県内では本町四丁目婦人会だけです。薬嗜らしいチームワークで、いい見本になります」と高い評価を得たそうです。



ごみの減量化・再資源化という言葉が定着した今日、ごみの減量化はごみの再資源化と表裏一体であり、住民総参加による取り組みが求められています。「ごみを減らす近道は、ごみをきちんと分別して出し、生かせるごみを見捨てないことです。これからも地域で助け合って、リサイクル社会を築きたいです」と話す本町四丁目婦人会の皆さんは、ある意味で一歩先行く"ごみ文化人"といえるのではないでしょうか。

お買物、ご用命は市内で

謹賀新年
本年もよろしくお願いいたします
粋なうまみ銘菓 もか大福
美味 いちご大福
ご慶弔式菓子
田家屋
月曜定休日
新津市本町四丁目 ☎&FAX 22-0430

新年会 3,000円から 6,000円で鍋付
本町2 横浜亭 ☎22-2225